

Hand in Hand

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚——それは旅の半ばの一つの出来事。
新たな旅立ちをした女たちはいま手を取り合い、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。
ハンド・イン・ハンドは、生きやすい社会をめざし支えあう女たちの、流木である。

Vol.236

逐次刊行物

19.9.01

国立女性教育会館
女性教育情報センター

〔離婚と住まい〕

- ★池袋から急行で1時間の武蔵嵐山にある国立女性教育会館。娘が2歳だった時からハンド・イン・ハンドの合宿で利用していますから、もう23年の常連。この夏も残暑厳しい中、1泊で行って来ました。大木が生い茂り、吹く風は東京より1~2度は涼しく、鳥や蝉の声に囲まれて久々にゆったりとしました。
- ★かつて、1歳から14歳までの子どもたちを大勢引き連れて体育館で走り回ったり、川辺でキャンプをしたり、調理室で子どもたちが作った昼食を味わうといった合宿をしょっちゅうしていた時代もありましたが、最近は、離婚して何年も経ち、子どもも大きくなってとりあえず生活が落ち着いたという人の参加が増えています。
- ★となると、勢い、話は親の介護、自分の老後に行き着き、離婚した女性たちの年金の少なさ、離婚時の年金分割のまやかし等々に及びます。この年金問題については次頁を参考にして欲しいのですが、離婚女性の住宅問題も大きなテーマとなりました。
- ★3人の子を抱え、22万円の手取りで11万円

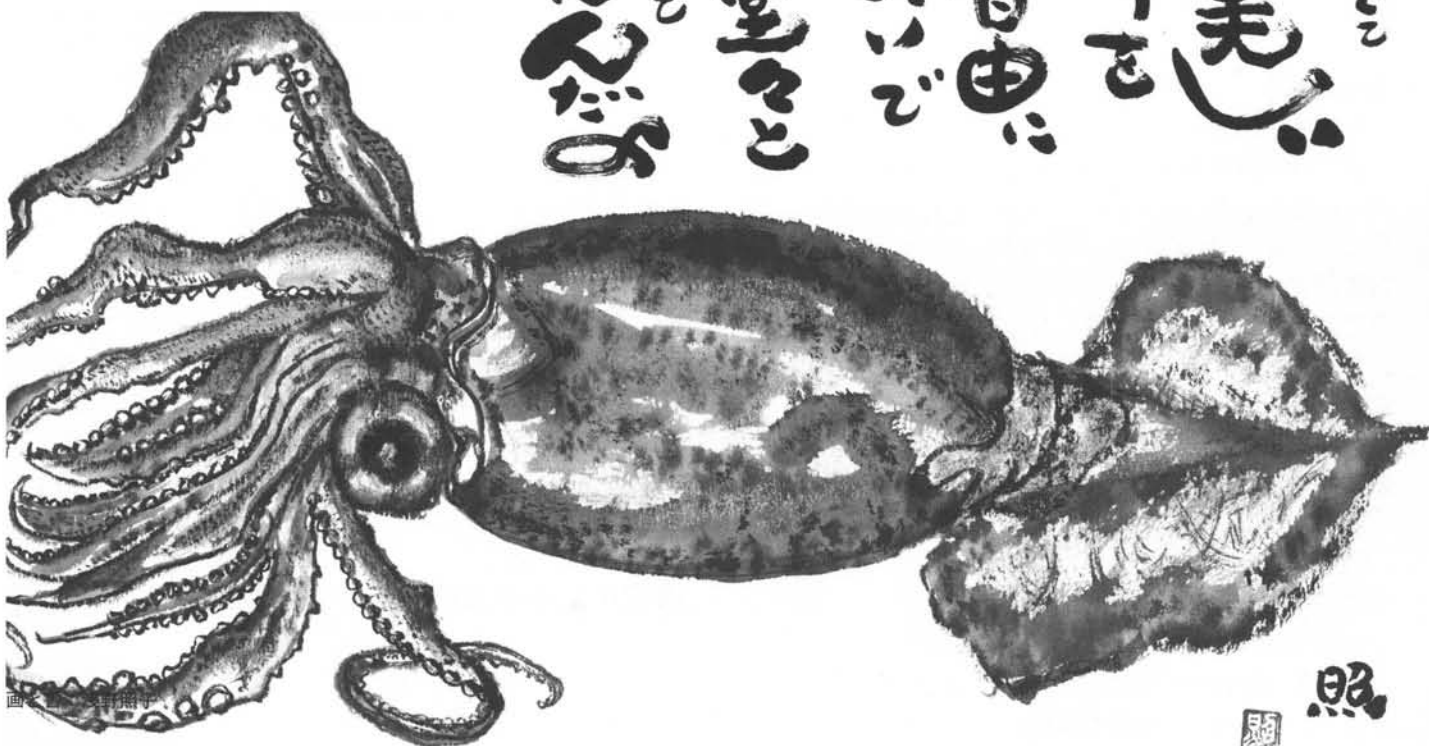
の家賃に住んでいたKさんはようやく公営住宅に当たり、家賃が3万円になったことで(今は6万円)、生活だけでなく精神的にも楽になったと言います。

別居中のIさんは夫が家賃や光熱費を支払うことになっているものの、しばしば滞納するので、毎月、薄氷を踏む思いで暮らしているそうです。

Aさんは2年以上かけて必死の思いで探した中古マンションのローン契約時の審査で、離婚理由まで聞かれたとか。

- ★私も賃貸アパートの契約で連帯保証人が必要と言われ憤ったことがあります。住まいは生きる基盤です。自治体別に住居への補助や公営住宅入居の実態など調査したいと思っています。(円より子)

あんなに
海の中を
泳ぐ自由
えんどう
生きた
たんぽぽ



「女性の雇用と年金」



円より子



8月12日(日)～13日(月)に、恒例のハンド夏合宿を埼玉県嵐山町の国立女性教育会館で行いました。

今回は ちょうどお盆の時期と重なり、土日の日程ではなかったため、参加者が10名ほどという、こじんまりとした集まりでしたが、緑あふれる環境のもと、ゆったりと語り合い、情報を交換して、のんびりと心の洗濯のできた合宿になりました。

また、ICUの学生2名が、「ワーキングプア」をテーマに活動するNGO「ASK:icu」を今年の6月に学内に立ち上げたそうで、「シングルマザーの問題はワーキングプア」という視点から参加。将来、シングルマザーが資格を取るための研修を受ける際の基金を作りたいと熱く語ってくれました。

この紙面では、円より子の「女性の雇用と年金」に関するお話の要約をご紹介します。

●参議院で与野党逆転、法律改正のチャンス!

今、格差が広がっている社会の中で、みなさんの生活と政治は決してかけ離れているものではないことを痛感なさっていると思います。7月29日に参議院議員選挙がありましたが、今回は年金問題への関心の高まりや、与党の様々な不祥事が重なって、民主党に流れが傾き、私が副代表を務めている民主党は参議院では113名になり、第1党になりました。

なぜこんなお話をするかというと、みなさんにとって重要な問題についての法律を作ったり改正する際に、これが大きな意味を持つからです。

例えば選択的夫婦別姓や、財産分割一夫婦が築いた財産は離婚の際2分の1に分割する一法律案を作っても、十数年ずっと通らなかった。法案は議院運営委員会(議運)を経て、各委員会で実際に審議されるのですが、これまでは議運に与党メンバー数が多かったため、野党案は委員会に付託すらしてもらえなかったからです。今度は議運に民主党メンバーが多くなり、委員長も民主党が取りましたから、参議院では様々な法案を成立させることができるという状態に初めてなりました。

768条の財産分与の請求は、「離婚の際は財産分与の請求ができる」としか書いてありません。日本社会は性別役割分業が厳然としてあって、女性は家で家事や育児、介護、男性は外で働くというものとされてきましたから、男性の方が正社員で採用され収入が多い。です

から、財産も収入も男性の方が持っていることになります。そうすると、離婚時に財産分与の請求ができることになっていても、現実的には「分け与えて下さい」と言うのは女性ということになります。

最近は住居を持つ女性も増えてきましたが、家を持っているのは圧倒的に男性です。自分名義の預金を夫よりも持っている人も決して多くありません。財産分与を請求しても半分ずつにしようという夫はまずいない。9割が協議離婚で、その半数は財産分与も慰謝料もなく、もらえてもせいぜい50代で500万位、若い人は100万円から200万円位。8%の調停離婚だと財産分与の額が少し増えて、養育費の取り決めも多くなるという状況です。ですから、768条を「財産を2分の1ずつに分割すべきである」というように変えたいと思っています。

766条の子の監護者の決定、819条では協議上の離婚の際に父親または母親を親権者と定めるとなっていますが、親権と監護権というのを共同監護権にして、養育費を分担するのは当然だということに変えたいし、面接交渉権のことも法律に明記したいと思っています。今回の参院選での与野党逆転で、そういうことができる可能性が高くなったということです。

●何のための離婚時の年金分割制度?

皆さんの関心事は年金だと思いますが、ずっと結婚後も働き続けて厚生年金に入っていた人とか、学校の

教師で共済年金に入っていた人は少ないと思います。ハンド・イン・ハンドの会の人は、ほとんどが結婚した後何年かして仕事を辞めていて、厚生年金に入り続けた人は少ない。そうすると職業によってもらえる年金が全然違うんですね。

厚生年金も共済年金も国民年金も一元化して、職業によって差別されないようにしようというのが民主党案です。今の国民年金にあたる部分を基礎年金とし、この部分は保険料ではなく税金で負担する。基礎年金に加えた二階部分は保険料でまかない、所得に応じて支払う保険料と受け取る年金額が変わります。年収1200万円以上の人は受給年金額が多いから、基礎年金部分はもらわないで下さいというようにし、なるべく格差をなくしていこうという案です。

一般論で、私と同じくらいの年齢の人は、結婚してサラリーマンの妻になると国民年金を払っていない人が多かった。1986年から現在の年金制度になりましたが、それまで国民年金は任意加入でした。私の場合、20歳から2年間の学生の頃は親が国民年金の保険料を払っていたかもしれません。会社勤めして4年間は厚生年金に加入、結婚して10年間の年金カラ期間があり、離婚してから22年間 国民年金に入っていて今60歳。通算28年間入っていたので、加入25年以上の受給資格がある。でも4年間の厚生年金は、結婚する時に脱退一時金をもらった方がいいと言われて脱退したと思います。その頃はそう言われて皆、辞めさせられていました。ですから受給資格はあるけど、払ったのは24年間なので、40分の24、たぶん月額3万円強しかもらえない。それが5年後から支給され始めます。65歳まで働かないといけなし、65歳になっても月に2、3万円しかもらえないでどうやって食べていくのかが、離婚女性の問題点です。

若い時に別れたなら別ですが、今熟年離婚が増えていきます。年金分割も、夫の年金が半分もらえるわけではありません。ずっと働き続けた人で男性の平均年金額は月20万円、女性は月11万円です。女性で基礎年金満額もらえる人で月6万6000円。月20万円の半分がもらえるんだわーと思っている人が多いのですが、実は、20万円から基礎年金部分6万6000円を引いた13万4000円の半分だから6万7000円。6万7000円もらえたら自分の基礎年金と合わせて月13万3000円。パートでもすれば家がなくても食べていけるかなあと思っても、夫と話し合わなければもらえない。離婚の時に、その半数が財産分与や感謝料がゼロで別れている状況なのに、分けてくれと言って分けてくれるような夫だったら大体離婚しないですよ。この離婚時の年金分割制度も、結局は夫の合意が必要です。

もう一つは自動的に2分の1になるのは2008年4月1

日からの保険料の部分で、しかも妻が第3号被保険者だった期間のものです。それ以降に25歳位で結婚して第3号被保険者になった女性が60歳で離婚する場合には、自動的に2分の1に分割されます。でも、30年後に2分の1になりますではなく、遡及して今から2分の1にしますじゃないと意味がない。今20代の人たちはよくわかっていて働き続けようとしています。保育所も私たちの頃より整備されていますし。今一番困るのは今から年金をもらう人なのに、何のための法律なのか。「これまでの年月を遡及した形で分割する」という一言を法律に入れば変えられます。それが通る可能性が出てきました。

●フルパートに適用しないパート労働法って？

1981年からハンド・イン・ハンドの会をやってきましたが、その頃からパートの問題がありました。

パートから何とか正社員になっていったという時代もありますが、バブルの崩壊後、男性もパートや派遣が増えてきました。何ヶ月か前に大手企業の派遣労働の不正が発覚しましたが、人を人と思っていなくて、低い賃金でただ会社が儲かればいいという経営者が増えています。日本のトップのモラルがものすごく落ちてきています。

そんな中、雇用を守っていくのは大変なのですが、パート労働法を作ればうまくいきますからと厚生労働省に言われ、昨年、パート労働法の審議を始めたら、何とひどい法律か。労働関係の法律を作る時は、何年も前から、労働側の代表者と使用者側の代表者と公益の有識者の三者で、審議会を1年か2年開くのですが、使用者側の意見が非常に強い。厚生労働省はいいものを作りたいと労働者側についても、使う側が「そんなお金は出せません。そんな人たち雇えません」と言うと、一番力関係では強いから、そこの審議会でほとんど骨抜きにされた法案しか出ない。審議会で了承された法案しか国会に出てこないから、与党の数の力で、修正ができない状態でした。

パート労働法とは、パート労働者と正社員の労働条件について差別的取扱いを禁止するための法律です。例えば、スーパーの店長には女性のパートが多いのですが、ある程度時給が上がってもパートだから、責任は重く朝から晩まで働くような過重労働でも収入はあまり上がらない。今度のパート労働法の改正で、同じような仕事をして同じような責任を負う人は、正社員と同等の待遇をするようにという形になったわけです。

「するように」の部分に、努力義務の部分としないという義務の2つがあって、しないという部分にこのパートの店長のようなケースは入るのかと国会で質問



したら、「転勤がない人は正社員と同等ではありません」との答え。でも子どもを育て、夫の仕事も東京で、家もあって、だからパートで働いていて、優秀だから店長に抜擢されて、「あなた優秀だから、これから山形に行って店長をして下さい」と言われてもできるものじゃないでしょう。それができるなら最初から正社員になってもっと収入高くていい待遇受けているわけだから。それを転勤ないから駄目だなんて。

また、中学で理科の先生をしていた人が離婚して、やっと研究所で理科の専門知識を活かせる所を見つけました。ほとんど正社員と同じ仕事ですが、パートで9時から5時で雇われていて、時給が600円なので年収が正社員と差ができていて。私たちはフルパートと呼んでいて、今回のパート労働法改正で「フルパートは救われるのか」と国会で質問をしたら、「正社員と同じ時間仕事をしている人はパートタイム労働者ではありません。パートタイム労働者とはILOの規定に従い、正社員よりも短い時間働いている労働者を言います。ですから同じように仕事に責任を持って同じ時間働いている人は、今回のパートタイム労働法の改正の対象者にはなりません」と言われました。何のためのパート労働法改正なのかと厚生労働大臣や厚生労働省に言っても変わらない。

それは企業側の意見が強いからです。育児休業法ができたときも、企業側が猛反対して大変だった。男性は育児休業が取れないでしょう。それは収入がおおよそ3割から5割になるから。企業側の考え方に立ったら、育児休業を取っている間、誰か他の人を雇わないといけない。その人に給料をあげないといけない。そんなことすると会社が潰れると雇わないから、今いる周りの

人が仕事を余分にしないといけないから大変は大変。じゃあそこをどう両方にバランス良くやっていくかということを考えないといけません。

●問題をどういうふうに解決していくか

日本は、様々な雇用制度、年金制度、社会保障制度が、今まで性別役割分業や地域社会によって、税金を使わずに老人や子どもを支えていく、その一番の担い手が女性という枠組みでずっときました。けれども地域社会は崩壊し、家族も崩壊しました。夫婦と子ども二人の「標準世帯」をモデルに、毎年、増税したらこうなりますと言われてきましたが、すでに「標準世帯」は3割を切っています。社会保障制度も税制度も何もかもが昔ながらの枠組みの上に立っているから、うまくいなくなっているのが現状です。

もう一度地域社会を活性化して地方分権をしっかりと進めるなどしない限り、日本はもっとずたずたになって行き、国民がバタバタと倒れて行くでしょう。

予算や税制度とか企業の利害が関わる部分の法律を変えていくのは大変ですが、少しずつ突破口を開いていくことが今後の課題。それには女性が声をあげていかなければならないんじゃないでしょうか。

◆夏合宿参加者からのコメントを紹介します◆

- 苦勞を乗り越えて、皆さん前向きに頑張っていることを感じました。今現在、問題を抱えている方は、さぞかし大変だろうと思います。同じような状況の方がいることで心の内をさらけ出すことができる非常によい機会だと思いました。
- 離婚の本音はなかなか友人にも話せませんが、夏合宿では気兼ねなく話し合えます。
- 毎回参加させていただいて、1年ごとに自分の気持ちの変化を感じ、心身ともに元気になってきていることを嬉しく思いました。知人に会えることも喜びの一つですが、年々参加される方が少なくなって、さみしさも感じつつ、皆さん元気なんだと安心しています。

- 大人になった今でも、常に子どもの視点で物事をとらえ考えていた自分に気がきました。
- 1年ぶりに皆さんにお会いできて嬉しかった。でも夜の懇親会に、学生さんの参加はどうかと。ここだから話せるという場なので。
- 参加者が少なくてさびしかった。ハンドの例会でもそうだけれど、新しい人が集まらなくなったので古くからの会員を頼ることになり、先細りになっている感じがする。
- 講師の方の講演を楽しみにしていたのが中止になって残念。でも、懐かしいお顔に会え、いろいろなお話が聞けてよかったです。



当事者の
視点から

「ハンド・イン・ハンド大阪」の活動について

ご意見ご要望をお聞かせ下さい



大阪での活動は丸24年となり、離婚講座も200回近くになりましたが、最近2年間は参加者が減少し、毎回開催経費が徴収会費を上回る状況です。もともと離婚講座の運営費用は、参加者の会費で賄われるボランティアな活動なので、最低限度必要な費用が捻出できればいい、たとえ赤字のときがあっても年間を通じて収支が合えばよしのスタンスで続けて来ましたが、このところの参加者の減少は、通年でも赤字になり、運営見直しが必要なのではないかと感じています。

最近離婚に関する書物が巷に溢れ、インターネットでの情報収集も容易になり、会合へのニーズそのものが減っているのではないかと思います。一般紙に講座開催案内の掲載を依頼していますが、取り上げてもらえないことが多くなったこともあるかもしれません。運営の中心にいるスタッフも離婚後の経過年数が長くなって、係争当時の葛藤や苦悩も遠いものとなり、感受性が鈍くなっていることも考えられます。

また私たちの関心事が、子どもの養育・教育から、親の介護、自分自身の老後の設計など、年代と共に変化してきています。見直しは、運営の方法なのか、講座の必要性そのものなのか、今年の初めの運営委員会では話し合いましたが、結論は出ませんでした。

これ迄にも協力関係にある しんぐるまざーず・ふ

おーらむ関西やウィメンズネットこうべの方々にもご意見を聞いてみました。これらの団体からは、定期的な離婚講座を継続していること自体が十分評価に値するとの見解を頂き、それぞれの団体の活動とは違う点を互いに補い協力しあうことで、活動の幅が広がるので、離婚講座は是非とも継続して欲しいという回答を貰いました。協力出来ることとして、講座開催の案内をそれぞれのホームページの関連情報として掲載して頂ける事にもなりました。

そこでハンド紙読者の方からも、これからの離婚講座やハンドの活動についてのご意見をお聞きしたいと思います。

ハンド・イン・ハンド大阪が活動の柱にしてきた、離婚に関する情報の発信と当事者のネットワーク作り活動は、どのような形で続けられればいいのか、離婚講座の必要性は？、私たちメンバー自身の現実課題である成人した子どもとの関係、親の介護、自分自身のターミナルプラン等、関心事を中心に据えた活動にした方がよいのか、当事者としての視点から忌憚のないご意見ご要望をお聞かせ下さい。よろしくお願いします。

【ハンド・イン・ハンド大阪の会／】



まで

弁護士二一〇番



〈回答者〉

弁護士 段林 和江

〒06-6364-3014

Q

結婚して18年、高2と中1の子どもがいて、夫の両親と二世帯住宅に住んでいます。元々、夫のバチスロ通いや時々の暴力に悩んでいましたが、2年前に夫の浮気が発覚。昨年1月から11月まで実家に戻っていました。子どものために夫とやり直そうと戻ってきましたが、夫から離婚を言い出され家から出て行けと言われました。下の子の小学校卒業を待って3月末に再び別居。夫から離婚調停を申し立てられました。夫は口が立つので、調停委員は夫の見方です。婚姻費用も払われず、こちらの条件が聞いてもらえないので、2回、調停を欠席しています。夫は裁判に持っていくと脅してきています。別居中の生活費ももらいたくないし、これから子どもの教育費等お金がかかります。養育費、財産分与など条件をきちんと決めたいと思うのですが、どうしたらいいでしょうか。

A

現在、子どもさん2人と一緒に家を出て別居されている前提で回答します。まず、調停のことですが、欠席しないで出席されることをお勧めします。調停の欠席を続けると、あなたに話し合いの意思がないとみられて、打ち切り、つまり不成立になり、夫は訴訟を提起することが可能になります。調停で自分の意思をうまく伝える自信がないのであれば、調停段階で代理人（弁護士）を依頼することも考えてはどうでしょうか？費用の負担が困難であれば、法テラスの民事扶助で弁護士費用の立替を依頼することも可能です。その場合、資力要件の審査があります。また、訴訟になれば長引きますので、離婚が成立するまでの婚姻費用分担の調停を提起しておくほうがいいと思います。

離婚の条件については、親権がどちらに帰属するか、あなたが親権者になった場合の養育費、慰謝料、財産分与など思われます。

まず、親権ですが、一緒に住んでいる現状や子どもさんの意思を尊重し、あなたが親権者になるのが適切ではないかと思われそうです。養育費については、裁判所の実務では、算定表に基づいて、双方の収入と子どもさんの年齢、人数によって、ほぼ標準的な金額が出ますので、その範囲で合意することが妥当でしょう。通常は20歳までと決めることが多いのですが、20歳になった時点で大学に在学している場合には22歳になった年の3月までという形で双方が合意することも可能です。高校以上の教育費については、例えば、入学金や授業料、修学旅行費など学校に納める学費については協議のうえ、双方の収入に応じて負担するという条項を入れることがあります。将来の学費はまだ金額が決っていないので、これ以上具体的に決めることは難しいです。

財産分与は、婚姻後に夫婦で形成した財産の目録を作って、原則として半分にするといいことになります。夫や子どもも名義の預貯金や生命保険の解約金など、調べる必要があります。慰謝料については、ギャングブル、暴力、浮気などは婚姻を破綻させた有責性の原因になると思われる。また、そのような原因を作りながら、あなたを追い出したということも破綻を招いた責任があるといえるでしょう。慰謝料の明確な基準はなく、婚姻年数が大きな要素になりますが、数百万円前後が多いです。慰謝料という名目だと相手は抵抗するので、調停では解決金という抽象的な形にする人が多いです。

《家計簿公開》

第164号 神奈川県 H・Kさん

〔家族構成〕

私 44歳(職業訓練校生)

娘 13歳(中1)

息子 9歳(小3)



《家計簿内訳・2007年6月分》

★支出★

家賃	100,000円
食費	42,313円
教育費	37,864円
水道・光熱費	16,123円
通信費	14,241円
NHK受信料(2カ月分)	2,690円
子ども保険料(掛捨て)	2,000円
社会保険料	16,031円
娯楽費	16,127円
子ども小遣い	1,500円
交通費	1,480円
雑費	12,089円
私……〔※1〕	18,968円
娘……〔※2〕	19,663円
息子……〔※3〕	3,133円

合 計 304,222円

〔※1～3〕それぞれの被服費、医療費、おやつ代など。今月は娘の夏制服代含む。

◎今号は引越のため、2～3万円出費が多い。

◎私の個人年金保険料12,341円は年払いなので、毎月の家計からは出費せず。

★収入★

養育費(夫から)〔※4〕	80,000円
失業保険	約135,000円
児童扶養手当〔※5〕	45,550円

合計 約260,550円

◎不足分は預金より引き出し。

〔※4〕将来の学費のために全額貯金。

〔※5〕8月から、26,000円に減額。

〔住居〕賃貸マンション・3DK



「私OKで あなたもOK」の思考で これからは生きていきたい

◎人生の岐路に立ったときに 出合った人たちに感謝！

調停離婚が成立したのは、2年半前の平成17年3月14日。ちょうどホワイトデーで、離婚成立が夫からの最後のプレゼントだと受け止めたのを覚えています。調停の間は、淡々と事実を語るように心がけていましたが、すべてが終わって、夫が家裁の調停室を出て行くときに一言「頑張ってたね」と言ったんです。とたんにダーツと涙が出て、調停委員の前で初めて「辛かった」と口にしました。

でも、特別に感慨深いものがあつたわけでもなく、ひとつ物事が終わったという淡々とした感じ。調停はそのとき夫の居住地だった鹿児島で行ったので、弁護士さんと、どうせだからと温泉に一泊旅行を兼ねたくらいでした(笑)。

当時、私と子どもたちは何回目かの転勤先の兵庫に住んでいました。弁護士さんは、たまたま大阪ハンドの会の例会をのぞいて出会った竹川幸子先生。厳しいと思うこともありましたが、シビアなアドバイスと共に、少しでも安い費用で調停が終わるように心を配ってくださり、今も家族ぐるみでお付き合いさせていただいて、よい方にめぐり合えたと感謝しています。

離婚を機に失ったものもありますが、それ以上に得たものが大きい。ハンドとの出会い、知り合った仲間、弁護士の竹川先生、たくさんのお会いの中で知恵と勇気をもらいました。これからもこの繋がりを大切にしたいと思います。

◎お金にシビアな私と ルーズで借金を重ねる夫

私は福岡出身で、卒業後に地元で勤めた製薬会社で、同僚である夫と出会いました。運命の出会いといった感じではなく、大失恋した直後にフツと周りを見たら、一緒にいると楽しくて優しい彼がいたんです。周囲の評価は“誠実な人”で、短期間の付き合いで、平成3年、29歳になる直前に結婚。結婚前に結婚自体がとてもイヤになって、現実逃避してニューヨーク旅行で気持ちを紛らわし、マリッジブルーだと自分に言い聞かせて、抗いがたい流れに乗

った感じで結婚しました。

職場結婚なので仕事を辞めざるをえず、どうせ主婦になるならプライドを持とうと決意。私が家と子どものことをきちんとみているから夫も働けるんだ、やるべきことはやらねばという義務感から、主婦業を徹底してやりました。ですから、主婦として働くことに関して、無償ではなく、きちんと見返りが欲しかったし、それがあって当然、夫の収入も夫婦2人で得たものという意識が私にはありました。

ある意味、完全主義者の私は(これは欠点でもあると今は気づいていますが)、お金に関してとてもシビアです。きっちり家計簿をつけ、収支がはっきりしないのはイヤ。ところが夫はお金にルーズで、私の知らないうちに借金をし、それを何度も繰り返したんです。当然、借金は収入の中から返すわけで、私の感覚からすれば“夫婦の共有財産”の中から返すことになる。ところが夫には「俺の稼いだ金を俺がどう使おうと勝手だろう」となるわけ。その意識の違いが、離婚に至った一番大きな要因だと思っています。

借金の使い道は、夫の自己申告を信じるならばパチンコなどのギャンブルだそう。借金を返済する際に、使途を説明して欲しいと願うと、夫はわかったと承知するものの、いざ返済が終わると説明はおろか話し合いにも応じません。喉元過ぎればなんとやらで、あまりの子どもっぽさに腹が立ちました。

正直、女性問題もありました。携帯の伝言ボックスで出会ったとかで、相手にも家庭があり、ごく短期間で別れたと夫は言いましたが、ほんとうのところはわかりません。これが明らかになったのは、平成14年、3度目の借金が発覚した後のことで、私が経済的にも精神的にも不安定になってカウンセリングを受けていた頃のことでした。離婚を意識し始めたのは、この時点からです。

この頃、夫も体調を崩し始め、「パニック障害、軽うつ」との診断で薬を飲み始めました。すぐにでも離婚したいと思う反面、精神的に不安定な夫を投げ出す勇気はなく、しばらくは現状維持でいくしかないという家庭内別居状態が続きました。

その後、夫は昼間からお酒を飲み、

子どもが嫌がることを口にしたり、私に暴言を吐くことが多くなりました。もともと暴言や、物を投げる・壊すは時々あって、結婚してすぐの頃も私への直接の暴力行為から離婚話になったことがあります。その後も時々、私が夫に意見や反論をすると「出て行け」と怒鳴ったり、物を投げつけたりがありました。ただ、俗に言われるDVの輪のように、暴力の後、蜜月があって、緊張期が訪れて……みたいに、よい時期があると嫌な時期のことをつい忘れて、やり直そうと思ってしまう。そんなことを繰り返していたんですね。

◎メールで届いた離婚要求

その頃、夫の会社の先輩で、数年前に会社を辞めて事業を起こした方から連絡がありました。私たちの現状を知った上で、夫は今の仕事に無理をしていて、それが病気にもつながったのではないかと、自分の会社に誘ってくれたのです。夫は会社を辞め、鹿児島にある彼の会社への転職を決心。しばらく一人で頑張りたいという夫と、夫から離れてゆっくり考えたかった私の思いが一致して、これを機に鹿児島と兵庫とに別居しました。

平成16年3月の夫の退社と共に社宅を出て、同じマンションの家賃の安い部屋に引越しました。子どもたちに急激な環境の変化をもたらさないように考えたためです。私はマンションの1階にあるコブで、子どもの生活時間帯に影響がない範囲で1日4時間程度、週5日のパートの仕事を始め、月に6、7万円ですが収入を得るようになりました。

ところが6月末頃から我が家に夫宛にサラ金業者からの電話や督促状が届くようになり、7月には直接訪れての督促が始まったのです。夫の4度目の借金で、これが離婚への決定打となりました。夫の携帯電話はつながらず、何度かメールで督促の実情を報告すると、夫から返信が入りました。「離婚の手続きをお願いします」というタイトルで、「貯金から借金を払った残額は全部あげますから、それで許してください」という内容。離婚は望むところでしたが、メール連絡で事を済ませるやり方にはあきれました。

数日後、夫の提示した離婚の条件を受け入れて、通帳と、借金返済と離婚合意のための書類を送りましたが、お金が届いたとたんに夫から離婚を撤回する旨の電話が入りました。離婚は本気で言ったのではなく、サラ金が

らの取立てを知ってパニックに陥ったため、との主張。でも、私の方の離婚の意志はとうに固まっていた。その後もコロコロと態度の変わる夫から再三の離婚撤回や調停の取り下げ要求があって、嫌な思いをたくさんしましたが、最終的には仲人の助言もあって夫は離婚を承諾しました。

◎転居をプラスにする生き方を

離婚当時、小学校4年生だった上の娘が小学校を卒業するのを機に、兵庫から神奈川へ思い切って転居しました。いろいろと悩みましたが、中学入学以降は学校の関係で転居が難しくなること、神奈川と東京には、私の姉を始め、気持ちの通じる親戚がいることがポイントになりました。母子3人だけの暮らしでは煮詰まって、お互い逃げ場がなくなることもあると思います。今後、子どもたちが逃げ込める親戚が近くにあり、私以外の親しい大人と接して成長することは、精神的に心強いと考えたからです。ただ、私が尊敬・信頼し、これまでも相談に乗ってもらっていた叔母が、今年1月に急逝してしまったのが残念ではありますが。

もうひとつ、転居を考えるにあたっては実家の母のことも視野に入れました。今、父の余命がわずかと宣告されており、近い将来、福岡で一人になる母は、兄夫婦や親戚が近くにいないとは言え、娘との暮らしを望む可能性が高いのです。

実は、私は母を尊敬できないし、母のような生き方だけはしないと自分に言い聞かせてこれまで生きてきました。機嫌が悪いと暴力的な振る舞いをする父に怯え、自分からは何もせずに決定権を父に委ね、不満を言いながらも未だに一緒に暮らしている母が嫌でたまらなかった。でも、「(離婚して)配偶者のいない娘が、一人になった母親と一緒に住むのは当然」という田舎の親戚の勝手な偏見には腹が立つものの、いずれそうするときが来るのなら受け入れやすい環境を作っておこう、母の弟や、もう一人の娘である姉が近くにいる環境なら、私一人で抱え込まなくてもすむと考えたんです。いくら嫌っていても、親は親。せめて最後くらいは親孝行の真似事でもしようかと……でも、これはあくまでも自分のためですね。

神奈川への転居が正解だったかどうか現時点ではわかりませんが、来てよかったと言えるように生きたいと思っています。

◎職業訓練校生として再スタートをきる

婚姻中、夫の年収は多い方で、傍目にはリッチに見えたと思います。でも内情は、借りたお金の何倍にもふくらんだ借金返済で火の車。ヒヤヒヤして暮らしていました。今は貧乏ですが、決まった金額の中でやりくりすればよく、自分ですべて把握できるぶん、気分は楽ですね。

養育費は、もう少し多い額を望んでいましたが、元夫の「無理」という抵抗で8万円になり、けれども離婚後、毎月きちんと振り込み続けてくれていることには感謝しています。子どもたちと父親との絆の一つの形でもありますから、積み立てて将来の学費にあてるつもりです。

現在、収入はありませんが、離婚時に夫婦の財産から夫の借金返済金額を引いた約900万円が私のものとなり、独身時代の貯金と合わせて、しばらくの暮らしにあてる資金としています。

兵庫では、離婚後もコブでパート勤めをしながらヘルパーの資格を取りました。1年半ほど施設に勤めましたが、体力・精神的に疲れ果て、また、労働対価が低くて、頑張っても親子の暮らしを支えきれないかと、将来もこの仕事を続けたいという気持ちになれませんでした。そこで、神奈川への引越しを機に、この7月から、母子家庭枠で職業訓練校に入り、OA経理を学び始めています。結婚前に営業事務の経験があるとはいえ、当時とはOA環境もまるで変わり、一から勉強して自分のものにし、それを生かした仕事に就いて生活を安定させることが、今の私の最優先事項だと考えます。

※

先にも言いましたが、私は完璧主義で、それゆえに苦しむことも多いのです。よいママでいようと頑張りすぎた時期もありですし、また、よい妻であろうとしたことが夫を追い詰めた一面もあったのかもしれないと今なら思えます。今までは自分だけの価値観で生きてきた感もあるのですが、これからはもう少し周りの意見も傾聴していきたいと思っています。

★離婚を通じて、自分の欠点も正面から見つめられるようになったのね。肩の力を抜いて、自分を認め、相手を認めて生きていくと、たくさんの出会いにも恵まれることでしょう。頑張りすぎないで頑張って! (円より子)

告知板

●近々の会合やイベントのお知らせです。
※申し込みや問い合わせ方法です
★お世話係さんから寄せられた近況報告です。



事務局便り

東京:

●参加者の希望により日時、場所を決めますので、参加希望者は、毎月7日ごろまでご連絡ください。

★「私たちの幸せな時間(※)」という韓国映画を見ました。テーマは人を許すことだそうです。離婚したことを子どもに「許して」と頼んだことはないけど、子どもが自ら親を許したときに、ようやく次の一歩を踏み出したような気がします。前号の「子どもの気持ち」を読んで、非行に走っていたり、不登校している時は何やら許せないものがあって、それを許したり受け止めたりできるようになったとき、子どもはそこから抜け出ていくのかなと思いました。

(※)あすし/3人を殺害した死刑囚と、3回の自殺未遂をした女性。世の中を憎み、死だけを考える男女が、週に1度、刑務所の面会室で会うこととなり、お互いが本当の自分をさらけ出せるかけがえのない存在となって、自分を新たに見つめなおしていくが…。

大阪:

大阪ニコニコ離婚講座

原則、午後1時半～午後4時半まで、ドーンセンター(大阪市中央区大手前1-3-49 Ⅷ06-6910-8500)で。参加費は、講座:1500円、ミニ講座:500円

●9月29日(土)「離婚に関する法律の話」

講師:竹川 幸子 さん(弁護士)

離婚係争中の人、迷っている人にとって、決断の拠り所となる法的な情報を分かりやすくお話し頂きます。別居期間中の婚姻費用分担、子の親権者・監護権者、養育費、財産分与、慰謝料、調停、裁判、等々

例 会

原則、奇数月の第4土曜日の午後。
竹川法律事務所(大阪市淀川区西宮原1-4-15-602 TEL06-6393-1331)、またはドーンセンター小会議室にて。

変更の可能性があるのでご確認を。

●9月22日(土)午後1時半～

竹川法律事務所にて

▼5面に関連記事あり。
ご参照を。

香川:

Ⅷ

★肩の手術後が想像以上に大変で、2ヶ月以上、右手の指と手首が熱を持ってパンパンに腫れていて不快で不自由です。医者は原因を探ろうともししてくれないので苦慮しています。どうやら労災扱いになりそうな気配です。

そんな中、保守王国香川で若い女性国会議員が当選したのは、ひととき肩の痛みを忘れさせてくれるうれしい出来事でした。休んだ仕事の穴埋めとリハビリに精一杯で、ほとんど応援らしいことはできなかったけど、圧勝でした。本当に力と意欲のある政治家がきちんと仕事をしてくれば、日本の少数派や弱者ももう少し暮らしやすくなるはず。今後の動向を期待を持って見守りたいと思います。円さんが力を発揮される場面が増えそうなもの、楽しみです。

愛知: WITH:

●愛知の会は「WITH」と称し、会合の日程は決まり次第HPでお知らせします。電話、メールでもお問合わせを。

●経験者による離婚個別相談(有料)を毎月第2、3土曜の午後1～6時に行います。予約、お問合わせは電話かメールで。

★最近50代のWITHの方が2名仕事を辞めました。お一人は自営でしたが、税金や駐車場代やら経費が儲けより多くなって…

とのこと。もう一人は介護の仕事5年目で心身とも疲れはてたとのこと。でも私たちは後10年、なんとしてでも働かなくては立ち行きません。仕事を見つけれましたが、名古屋では時給800円が一番いい仕事です。交通費が無いのでせめて1,000円の時給の仕事がないかしら? (参議院選でそういう公約をされた党もありましたね!)と言うのがお二人のため息とともに聞こえてきました。母子家庭で真面目に働いてきた結果がこれでは希望が持てません。

各地のお世話係

仙台

埼玉

埼玉

静岡

広島

福岡

熊本

大分

長崎

★一人で悩まず、気軽にお電話ください★

—— 離婚と母子の110番 Ⅷ03-3261-1835 ——

●基本的に毎土曜日:13～17時

※研修を受けた相談員が「無料」で相談を受けています。

面接相談

●原則 第1・第3土曜日:14時～15時半～

※料金:5,000円/50分(ただし2日前の木曜以降のキャンセルは、キャンセル料2,500円がかかります)

※9月は1日、15日、10月は6日、20日を予定しています。

※お気軽に事務局(Ⅷ03-3261-1835)までお電話ください。

<購読料について>

購読料は次のいずれか。自己管理のもと、期限切れの際にお振込みください。

①1年間3,600円(送料共) ②2年間まとめて前払いの場合、7,200円を6,000円に。 ③出世払いもしくは免除(どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出て下さい)

[振込先]各地の郵便局にて00140-6-120542 ハンド・イン・ハンドの会

ハンドからみなさんへ発信

現代家族問題研究所:<http://www.gendai-kazoku.jp>円より子ネット:<http://www.madoka-yoriko.jp>ニコニコ離婚ネット:<http://www.nikoniko-rikon.net>